

石川県七尾美術館だより

No.113

令和5年 春

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



長谷川等伯展 水墨の美技と、一門の俊英と

4月29日(土・祝)～5月28日(日)【会期中無休】

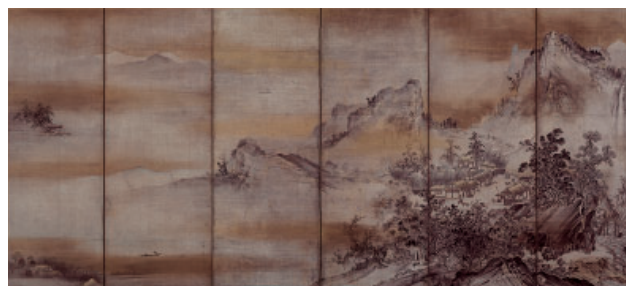
能登七尾出身で、安土桃山時代に大活躍した絵師である長谷川等伯(1539～1610)。今や日本国内はおろか、世界にも誇るべき「日本美術のスーパースター」と称しても、過言ではないでしょう。

等伯は戦国から桃山、そして江戸へとうち続く「烈風のごとき時代」を、絵筆と己が才覚のみを頼みに疾走しました。その72年間にわたるダイナミックな生涯の中で、描いた作品は現存するだけでも100点あまりを数えます。

それらは「日本水墨画の最高峰」「松林図屏風」(東京国立博物館蔵、国宝)をはじめ、いずれ劣らぬ名品ぞろい。400年以上を経た今もなお燦然と光彩を放ち続ける各作品は、等伯の赫々たる画歴と魅力あふれる人物像を、現在の我々に伝えてくれます。



△「宝塔絵曼荼羅図」
長谷川宗清(道浄)
氷見市・蓮乗寺蔵



「南蛮屏風」(左隻) 長谷川派 神戸市立博物館蔵
※「南蛮屏風」左隻は5/14～5/28の展示
Image/IMA Archives

当館は開館以来、等伯を重要テーマに位置付けて展覧会を継続してきました。それも今年ではや28回目を迎えます。

今回は「等伯の水墨画」と「長谷川派」にズームイン。次の3テーマで、等伯や一門の絵師たちの作品や資料など計27点を展示、彼らが歩んだ画業にせまります。

※記事中の作品名に付属の記号は、
◎：国指定重要文化財、□：石川県指定有形文化財
△：市町村指定有形文化財です。



□「仏涅槃図」 長谷川信春(等伯)
羽咋市・妙成寺蔵

テーマ1「源流・能登長谷川四代」

能登畠山家臣の子として生まれたと伝わる等伯が、まもなく養子に入ったとされるのが長谷川家です。同家は七尾城下に居を構え、染物と絵仏師を生業としていました。

同家には現存作品や史料によると、等伯のほかに絵師3名の存在が確認されます。

その3名とは、養父で師匠でもあった宗清(1507～71)、「長谷川派」の初代とされ等伯養祖父との説もある無分(生没年不詳)、そして等伯京都移住後に家業を継承したと考えられる等誉(？～1636)です。

本テーマでは、彼ら「能登ゆかりの長谷川派」絵師たち4名の仏画などを紹介します。



「鬼子母神十羅刹女像」
長谷川信春（等伯）
富山市・妙傳寺蔵



「春耕図」 長谷川信春（等伯）
京都国立博物館蔵

テーマ2 「雄渾・等伯の水墨世界」

若年時は主に、鮮やかな彩色による緻密な仏画を盛んに制作した等伯。それが30歳代といわれる京都移住後から、次第に水墨画の割合が増加してゆく傾向が見られます。

そこには等伯にとって、自らが追求する「画道」には水墨画こそふさわしい、という信念があったからなのかもしれません。

そのためなのでしょうが、ことに50～60歳代頃にはいずれも代表作というべき、名だたる水墨画の傑作が数多く描かれました。

そこで本テーマでは、等伯の水墨画に着目。若年期より60歳頃までの制作とされる水墨画の数々を紹介します。

テーマ3 「広範・長谷川派の展開」

「長谷川派」を率いた等伯の周辺には、いずれも絵師となった4人の息子をはじめ、数多くの弟子たちが活躍していました。

残念ながら史料が少なく、彼らの足どりはつきりしません。しかし現存する多彩な作品群から推測すると、どうやら「長谷川派」の絵師たちは等伯没後もしばらくの間は、一定の勢力を保持していたようです。

おそらく等伯から受け継いだ幅広いレパートリーを以て、広範かつ旺盛な制作活動を繰り広げていたのでしょう。

本テーマでは「長谷川派」絵師たちが手掛けた彩色画・水墨画を展示します。



□「仏涅槃図」 無分
七尾市・長壽寺蔵



△「日蓮聖人像」 長谷川等普
中能登町・本土寺蔵

◇観覧料

	一般	個人	団体
大学生	350円	300円	300円
一般	800円	700円	700円

※高校生以下無料・団体は20名以上です。

特別講演会 《聴講無料》

日時… 5月14日（日）

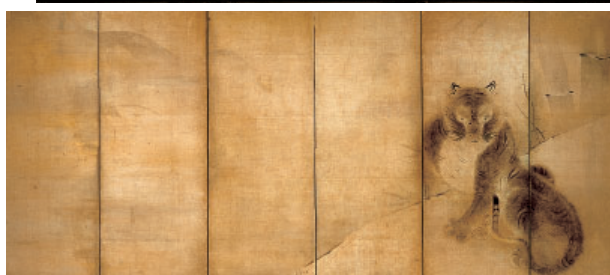
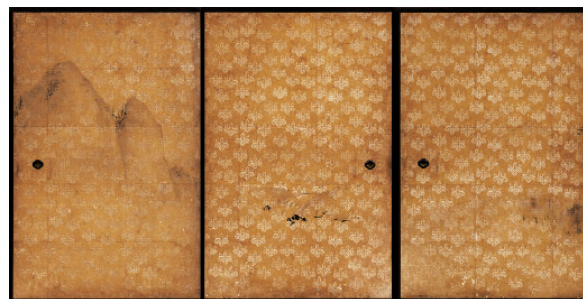
午後2時より（開場は午後1時30分）

会場… 当館アートホール

講師… 北 春千代（当館館長）

演題… 「壮年時代の長谷川等伯」

※講演会と聴講の方全員に、「等伯関連絵ハガキ」1枚をプレゼントします。



（上）◎「山水図」（部分） 長谷川等伯 京都市・圓徳院蔵
（下）「龍虎図」 長谷川宗也（新之丞） 京都市・相国寺蔵

第79回現代美術展 七尾展

6月22日(金)～6月25日(日)

毎年春の金沢を彩る公募展「現代美術展」。

県下最大規模をほこる同展の歴史は古く、第1回展は昭和20年(1945)10月に開かれまし
た。終戦後間もない頃、「美術文化の向上によ
る新日本建設への寄与」をスローガンに開催さ
れ、約4万人が観覧するという大きな賑わいを
みせました。その後も昭和・平成・令和と時代
を経て継続され、今年で79回目の開催となりま
した。

同展は日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真
の6部門からなり、文化勲章受章者や日本芸術
院会員、重要無形文化財保持者(人間国宝)と
いった現代の美術界を代表する重鎮から、新進
気鋭の若手まで幅広い年齢層の作家が出品する
のが特徴で、1,000点以上もの各種作品が、
所属会派を超えて一堂に展示されます。そのた
め、石川県の美術の「いま」を知る絶好の機会
となっています。

今年は3月31日(金)から4月17日(月)ま
で、石川県立美術館と金沢21世紀美術館の2会
場で開催されます。

「現代美術展」は、金沢の「本展」終了後に
県内の各市を巡回します。今年は70年ぶりに輪

島展が復活、過去最多の6会場で実施され、そ
れぞれ地元ゆかりの作品などを選抜する形式で
展示が行われます。

当館では平成7年(1995)の開館以来、
毎年6月に「現代美術展 七尾展」を開催して
おり、今回で29回目を迎えます。

「七尾展」では「本展」出品作品より、能登
地区(宝達志水町以北)在住者の入選作品を中
心にセレクト。そして、一般財団法人石川県美
術文化協会役員、能登地区在住・出身の委嘱作
家の作品および次賞以上の受賞作品(次賞は一
部)などとともにあわせて約200点を紹介し
ます。日本を代表する巨匠から身近な作家の作
品まで、ぜひお楽しみください。

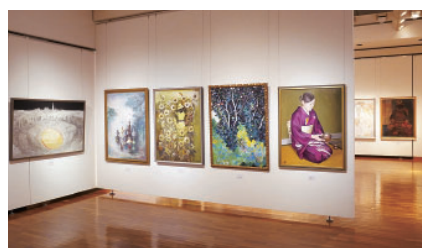
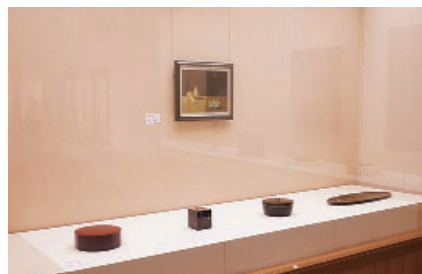
◇観覧料

	一般	個人	団体
大学生	350円	300円	
	500円	400円	

※高校生以下無料・団体は20名以上です。

料金変更のお知らせ

4月1日から観覧料改正により、
全ての当館主催展覧会で高校生以下
も無料となりました。



昨年の展示の様子

貸館催し物案内

アートホール

◆「長谷川等伯展」開催記念

国民文化祭七尾市事業
市内4中学校吹奏楽部演奏会

4月29日(土・祝) 開演10時30分(予定)
主催 いしかわ百万石文化祭2023

七尾市実行委員会

連絡先 ☎0767(53)1125

(国民文化祭推進室)

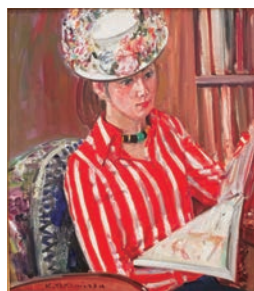
◆第22回穴戸美奈子音楽教室発表会

5月7日(日)開演10時30分

14時40分

主催 穴戸美奈子音楽教室

連絡先 ☎09043289433



「帽子の女」 高光一也

- ① 洋画「帽子の女」 高光一也 1面
昭和時代（20世紀）制作
- ② 日本画「水仙」 高光一也 1幅
昭和55年（1980）頃制作
- ③ 洋画「椿」 奥田憲三 1面
昭和後期（20世紀）制作
※高田敬義氏より寄附
- ④ 金工「太刀 銘能登國住眞撫武造」
向井眞撫武 1口
昭和60年（1985）制作
- ⑤ 金工「短刀 銘眞撫武造」
向井眞撫武 1口
昭和61年（1986）制作
※北野丈平氏より寄附



「太刀 銘能登國住眞撫武造」 向井眞撫武

令和4年度新収蔵品紹介

令和4年度に当館に寄贈された作品は左記の5点。貴重な作品をご寄附くださり、誠にありがとうございました。

令和5年度友の会 行事スケジュール

～皆さまのご参加をお待ちしております～

●「美術館だより」年度内4回発行 ※（ ）は発行予定日

第113号(春号)(4/1)・第114号(夏号)(7/1)・第115号(秋号)(10/1)・第116号(冬号)(1/1)

●「友の会」開催予定行事

4月28日(金) 「長谷川等伯展」開会式・鑑賞無料ご招待

7月30日(日) 「動物たちの浮世絵展」開会式・鑑賞無料ご招待

9月23日(土・祝) 「能登畠山氏とゆかりの文化」開会式・鑑賞無料ご招待

10月 未定 「第24回友の会鑑賞の旅」開催予定

11月10日(金) 「2023 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」開会式・鑑賞無料ご招待

※「友の会講座」も開催予定(時期未定)です。

※開催日程・内容等は変更または中止となる場合がありますのでご了承ください。

七尾美術館から
車で30分!



石川県能登島ガラス美術館 展覧会情報

テーマ展「ものがたりを紡ぐ」

開催中～6月18日(日)

特別展「町田市立博物館所蔵ガラス名品展」(仮)

6月24日(土)～9月24日(日)

企画展「30年の軌跡」(仮)

9月30日(土)～12月10日(日)

特別展「光をまとう」(仮)

12月16日(土)～令和6年3月24日(日)

企画展「コネクト」(仮)

令和6年3月30日(土)～終了未定

こだわりの逸品たちー池田コレクション

7月1日(土)～7月23日(日)

「池田コレクション」は、七尾市出身の実業家でコレクターでもあった池田文夫氏(1907～87)が蒐集した美術工芸品289点をいいます。その内容は、近世・近代日本画や浮世絵、美濃焼・唐津焼・九谷焼に漆工・金工まで幅広いことで知られます。今回は、池田氏が愛情とこだわりを持って蒐集した逸品たちから、日本画、陶磁器、金工作品を中心に約60点を紹介します。



「黄瀬戸六角盃」
(池田コレクション)

絵師も動物も、人気モノ勢揃いー動物たちの浮世絵展

7月30日(日)～9月18日(月・祝) 【会期中無休】

江戸の人々に親しまれた浮世絵には、しばしば動物たちが登場します。

特に人気を博した江戸三大ペットといえば、猫・犬・金魚ですが、本展では、そのほかにも人と共に働く猿・馬から、舶来の虎・象・駱駝や空想の珍獣まで、浮世絵に登場する人気モノが約140点大集合します。描くのも、鈴木春信から歌麿、北斎、広重、豊国と弟子たちと、人気浮世絵師が勢揃い。

また、会期中はイベントのほか、記念撮影コーナーも用意していますので、ご年配の方からお子様まで、この夏は涼みがてら「浮世絵でみる動物図鑑」をぜひお楽しみください。



「見立廿四孝 王祥」歌川国貞
(中右コレクション)



「当世見立忠臣蔵」落合芳幾
(中右コレクション)



「流行美人 浅草公園水族館」楊洲周延
(中右コレクション)



「大日本六十余州之内 安房 里見の姫君伏姫」三代歌川豊国
(中右コレクション)

石川県七尾美術館だより No.113

発行日:令和5年4月1日
発行者:公益財団法人七尾美術財団
〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262
<https://nanao-art-museum.jp>

表紙



※表紙は右隻部分

「太閤花見図屏風」(右隻)長谷川派 桃山時代(17世紀)
名古屋市博物館蔵 ※「長谷川等伯展」より

慶長3年(1598)に豊臣秀吉が京都・醍醐寺で催した「醍醐の花見」がモチーフという屏風。画面には桜をはじめ、松や榎などの木々が細やかに表されて何とも絢爛。一方で左隻には人物が3人大きく描かれ、うち1人は秀吉本人とされています。サインなどはありませんが、図像の特徴などより作者は「長谷川派」絵師の可能性が濃厚です。